

《史料紹介》

〔武州葛飾郡上吉羽村〕

一件口書写

天保八酉年十二月

儀助控

(一)

神立春樹

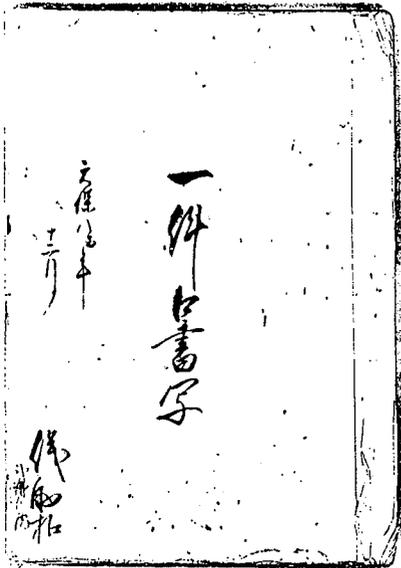
目次

はじめに

第一冊……………以上 本号

第二冊

解説



はじめに

(2)

小論は、二件口書写 天保八酉年十二月 儀助扣 弐冊之内」という二冊の文書を翻刻、紹介し、若干の解説を行なうものである。

これは、武蔵国葛飾郡上吉羽村（現在は埼玉県葛飾郡幸手町上吉羽）の天保八（一八三七）年のある事件の取調べの供述書の写である。

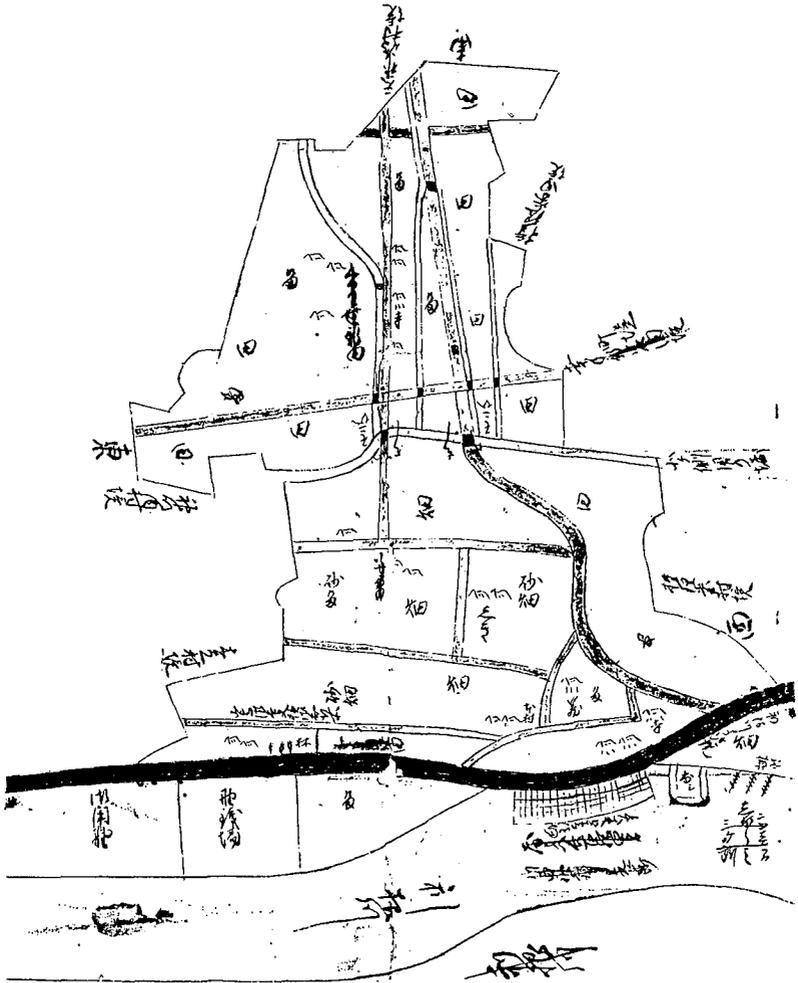
この上吉羽村は明治二十二（一八八九）年四つの村の合併によって権現堂村となった、権現堂川沿いの村である。権現堂川は利根川が茨城県猿島郡五霞村川妻で二分して本流赤堀川から分れ、五霞村江川で赤堀川から分疏した逆川と合流して江戸川となる。寛永十八（一六四一）年幕府の命を受けた伊奈忠治の開鑿に懸る。埼玉県側の堤防を権現堂堤といい、全長八百間ほどであるが、ここは直下してくる流水を横に受るといふことから往々にして堤防決壊の箇所であり、防水上ことに要所であった。ことに上吉羽村辺りは南下した川が右へ曲がる箇所であり、安永九年には大きな決壊があった。この権現堂川の防水のために、図のように、杭出が設けられ矢来が組まれたりした。ある事件というのは、ご普請所杭出の杭が大水で流失したが、この杭木流失に関わる事件である。

当初は流失と思われたが、「伐取」った跡があるということで、村人は召し出され、取り調べを受けた。その取調べの際の当事者の申し立てを筆記した供述書の写しが本文書である。二冊で、第一冊は五七丁、表紙、裏表紙、第二冊は三五丁、表紙、裏表紙で、B五判右綴じである。

この文書での村人の供述は、その事件の前後の人々の生活や行動を記す興味深いものである。ここにその翻刻を行ない、紹介することとする。

翻刻にあたって

- 1 改行、改葉については指摘しなかった。
- 2 平出、闕字は省略した。
- 3 読点、並列点を適宜付した。
- 4 漢字は常用漢字及び現行活字体とした。
ただし近世一般に慣用の、忪(悴)、羨(饑)、并(並)、メ(貴)、欵(歟)などはそのままとした。
- 5 変体がなは原則として平がなに改めた。
ただし、助詞などに用いられている而(て)、二(に)、江(え)、者(は)、茂(も)、与(と)、而已(のみ)などはそのままとし、活字を小さくした。
また、夕(より)、ホ(等)、斗(ばかり)はそのままとした。
- 6 繰り返しについては、漢字は々を用い、かな、片仮名は々、々、々をそのまま使用した。
- 7 虫損、破損などで判読不能の箇所は字数がわかる場合は□□、わからない場合は□□などでその状態を示した。また誤字・誤記についてはそのままとして(ママ)を付した。
- 8 行間書入れについては()をつけて本文に挿入した。



上吉羽村絵図 享保6 (1721) 年

(4)

口書

武州葛飾郡上吉羽村

本村株

百姓

勘重郎

当西五十壹才

右勘重郎悴

米藏

当西廿三才

百姓

六治郎

当西廿才

申口

当村方川除御普請所字堤大出しより川上五杭出し卷番之箇所杭木五拾本流失与心得、其段御掛り大竹伊兵衛様・小池勘次郎様江御届ケ申上候処、御取用ニ不相成候ニ付、其段八月廿六日、当御役所江御届ケ申上候処、右者伐取候跡有之趣相聞江不容易儀ニ被思召、村方株々村役人其外小前大勢十月七日御引立被召出逐一御吟味ニ御座候

此段勘重郎申上候、私共当時隠居仕罷在何事茂差構不申一向不存罷在候儀ニ御座候、悴益右衛門共村役茂

(5)

(6)

相勤メ罷在候得共、私并妻子ニ至迄御普請所杭木被伐取候噂咄しホ仕候儀無御座、聊以不存罷在候様子ニ御座候、尤八月廿三日夜益右衛門変死ニ付急参会触来り候得共罷出不申候、役元より翌早朝杭木之尋初而承知仕候得共、変死取込ニ付宜取斗相頼ミ候儀ニ御座候、其節村役人中心配致罷在候様ニ御座候、然ル処十月七日夜御引立被召出当御役所江罷出御吟味御座候得共、益右衛門存生中申置候儀も無御座、右伐取候者ニ御座候哉、右木品売買持運ひ作事ホニ遣ひ候者及見聞候儀無御座候、風聞ホニ茂及承知候義無御座候右之段米蔵申上候、私茂十月七日夜同様被召出御役所江罷出御吟味御座候、兄益右衛門厄介ニ而罷在候間右御普請所杭木被伐取候始末一向ニ存不申候、益右衛門儀死失前村役も罷在候得共、少茂存不申哉右様之咄しホ仕候儀無御座候、父勘重郎茂老年ニ付益右衛門死失後諸事心附罷在候得共、伐取候者并右品持運ひ売買致し候類作事ホ仕候者及見聞候儀無御座候、近所江罷出候而茂風聞ホニ茂及承不申候

一右之段六治郎申上候、私茂者農間之余業ニ市場或者神仏縁日ニ焼饅頭ヲ商ひ仕候、八月廿三日夜役元々急参会申来り候節、右当株組頭益右衛門変死私庭前畑中ニ右取込ニ而、延引仕候而右様一条一向不存儀ニ付其旨申述、諸事一同ニ宜取斗呉候様村役人中江頼候儀ニ御座候、然ル処十月七日夜私茂茂同様被召出御役所江罷出御吟味御座候、右御普請所川除杭伐取候者或者売買致候者持運ひホ仕候者作事其外相用江候者商買先ニおゐて近所ニ而茂及見聞候儀無御座候、風聞ニ茂及承候義無御座候

右ノ通り御吟味ニ付相違儀不申上候、以上

右

勘重郎

米蔵

六治郎

天保八酉年

十一月廿八日

前書之通り御吟味之節申上候ニ相違無御座候、以上

御知行所五ヶ村

差添人

吉兵衛

世話役

金子茂右衛門

御地頭所様

御役所

口書

武州葛飾郡上吉羽村

小七株

百姓

祐右衛門

当西三十三才

同

同

幸吉

(7)

中口

当西三十四才

(8)

当村方川除御普請所字堤大出しより沓番之箇所杭木五拾本流失与心得、其段御掛り大竹伊兵衛様・小池勘次郎様江御届ケ申上候処、御取用ニ不相成候ニ付、其段八月廿六日当御役所江御届ケ申上候処、右者伐取候跡有之趣相聞江不容易儀ニ被思召、村方株々村役人其外小前大勢十月七日御引立被召出逐一御吟味ニ御座候

此段祐右衛門奉申上候、私羨者農間之余業ニ牛馬之売買仕候得共、当年者四月二日自家内中流行之疫病相煩漸々八月ニ至り快方仕候ニ付、農業ニ茂不罷出牛馬之渡世も引込罷在候ニ付、右御普請所杭木之一条一向不存罷在申候、八月廿三日夜役元急参会申来候節者快方ニ付押而罷出候処、右之糺茂御座候ニ付流木一条六ヶ敷羨初而承知仕、一同宜敷取斗呉候様役元江頼候儀ニ御座候、然ル処十月七日夜御引立被召出当御役所江罷出御吟味御座候得共、右伐取候者何者ニ御座候哉右木品売買持運ひ作事ホ相用江候者、右病中ニ付外出ホ不仕及見聞候儀無御座候、病氣見舞ホ参り候もの風聞ホニ茂及承候儀無御座候

一右之段幸吉申上候、私羨者農間之余業ニ木挽キ渡世仕候、六月十五日下総国桐ケ作村江金四拾両余之山ヲ受取罷越木挽稼仕八月廿八日帰宅仕、九月朔日又候罷越同十日ニ帰宅仕、又々九月廿一日ニ罷越申候而木挽稼仕罷在候、尤爲稼逗留ニ罷越候節帰宅仕候節其都度、役元江断申候、然ル処十月八日当御役所より御召出之趣ニ而迎ひ参り候間不取致見帰宅仕、当株名主五郎兵衛ニ被召連翌九ツ時出府急御届ケ申上候処、右御普請所杭伐取候跡有之候旨被聞召御尋御座候、私職分与申旁敲重御吟味御座候得共、決而身分ニ覚無御座候聊以伐取候者不及申ニ売買仕候者及見聞候儀無御座候、風聞ニ茂及承候義無御座、右伐取候木品ニ似寄候、伐木ホ木挽被頼候羨曾而無御座候、且亦道具貸羨茂無御座怪敷心当りホ茂無御座候

右

天保八酉年

十一月廿八日

祐右衛門

幸吉

差添人

吉兵衛

前書之通り相違無御座候、且又幸吉職分被稼他出仕候節帰宅之節私方江届ケ御座候相違無御座候、以上

右村

名主

五郎衛門

前書之通り申上候ニ相違無御座候、以上

御知行所五ヶ村

世話役

金子茂右衛門

御地頭所様

御役所

口書

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

本村株

(9)

当村方川除御普請所字堤大出しより川上五杭出し苧番之箇所杭木五拾本流流失与心得、其段御掛り大竹伊兵衛

申口

(10)

与頭

甚平

当酉五十四才

變瀬株

同

要右衛門

当酉二十九才

信木株

与頭

辰五郎頼三付

同人悴

平治郎

当酉十九才

小七株

与頭

吉兵衛

当酉二十才

様・小池勘治郎様江御届ケ申上候処、御取用ニ不相成候ニ付其段八月廿六日

此段甚平申上候、私茂高四石式斗三升八合所持罷在候、家内母女房男子三人ニ而六人暮御座候、村方川除御普請之茂者村内株々名主共、申上候通り別段之心附無御座候、出水之節之外堤通り見廻り罷出候茂無御座候、流失所調等罷成候茂無御座候、尤当年茂大雨後出水之節罷出候茂御座候得共、其節水高二而杭木等之様子相訳リ不申、八月廿三日株々三役人御詰所江御掛り様上高野村御普請所御咄しニ付十四人一同私茂茂罷出候処、当村惣代信木株名主弥右衛門煩ニ付代千代松、御届ケ申上候、流木之茂承御糺候ニ付右始末皆流失御届ケ御不審之茂初而承知仕候茂御座候、右ニ付詰所、一同引取小七株名主五郎兵衛宅江参会仕候筈相談し仕、私并百姓代喜六茂者小前之者江急参会可相触旨名主儀助、申聞候ニ付、帰り道途中より相分レ右参会触取斗江罷在候処、株内別事ニ者御座候得共村役人限り聞置ニも難相成難捨置用事出来仕、名主儀助、当御役所江御届ケ申上候一条之始末ニ取掛り候間、御糺し趣小前一同三役人より相尋御座候得共伐取不仕、申茂一向存候者無之、乍去当春出来之御普請早速冥加之程も奉恐入候茂ニ付、且者跡之御普請之障り相成候而も難波之茂、旁々以小前一同相談仕、千代松、申上候通り村方入用ヲ以打足し度歎願書上高野村御詰所江翌廿四日早朝差上ケ候処、御取用ニ不相成其段八月廿六日当御役所江名主共、御届ケ申上候茂ニ御座候処、十月七日夜野村幸右衛門殿御出役私外株々村役人其外小前之者迄大勢御引立被召出、則当御役所江罷出候処右流木御届ケ之内弥伐取候跡有之趣被聞召御吟味御座候得共、御詰所ニ而御糺し迄ハ右様之茂更ニ不存罷在候茂ニ御座候、御糺之節、承知仕恐多茂ニ奉存候、然ル処十月五日千代松并五郎兵衛、申上候者、伐取候跡株茂見受候旨申上候旨弥以驚入候茂ニ御座候、右ニ付場所御見届ケ之衆被遣候処、此節水干ニ相成弥伐取候跡御見届ケ茂御座候旨再々御吟味茂御座候得共、右被伐取候者何日頃ニ御座候哉、伐取候者何方之者御座候哉、伐取候木品売買致し候類作事其外何ニ而茂相用候者及見聞候茂無御座候、村方ニ

おゐて風聞ホ及承候。无御座候、八月中私儀私用ニ而幸手宿江参り往還通り仕候節守り女子供遊ひ居候右之様噂致し居候得共、其節者村方持場とも不存何心附不申罷在通行なから之。无ニ付、睦与承留候。无御座候、是迄申上候様茂无御座御詰所御糺渡近付其外申上候心附罷在候得共、有論之。无心当り无御座然ル。无、御召出御吟味之内右伐取候木ニ而者有之間敷候得共、村方附洲江流寄候材木引上ケ壳候者四人買請候者。而人御座候旨右引上ケ候者之内卯之助。无者私組下之者ニ御座候、万一伐取候木品ニ而も御座候ハ、不怪。无右様可有之者組下ニ御座候ニ毛頭不存罷在、全ク穿鑿不行届ケ何様御沙汰御座候。而も可申上様无御座候。

一右之段要右衛門申上候、私。无高拾石三斗三升考合所持仕、家内祖父母伯父女房男子。无人妹。无人。而八人暮ニ御座候、右御普請所見廻り方之儀甚平申上候通り私。无茂同様ニ御座候、別段見廻り候。无流木調候。无御座候、私。无六月下旬暑氣中ニより流行之疫邪相煩悪氣発熱御座候ニ付取越臥在、近々熱氣強ク浮され何事茂前後取留相覚江候。无御座候、漸々八月下旬ニ至リ快氣仕候、御詰所江八月廿三日株々三役人上高野村詰所江御呼出しニ付十四人一同私義罷出申候処、千代松御届ケ申上候流木之。无承御糺候ニ付右始末初而承知仕候。无御座候、御詰所も一同引取五郎兵衛方へ参会仕候処、名主共ノ組下小前之者急参会相触候様申聞候ニ付即呼集メ、三役人一同相糺し候得共流木杭ノ子細伐取候□与申。无相弁候者。无人も无御座候、乍去当春出□□候御普請無間茂破損仕冥加之程茂恐多。无ニ付、小前一同江相談仕千代松御届ケ申上候通り、村方入用ヲ以打足し度歎願書御詰所江翌廿四日差上ケ候処、御取用ニ不相成其段同廿六日当御役所江名主共御届ケ申上候。无ニ御座候、十月七日夜私外株々村役人其外小前大勢御引立被召出、則当御役所江罷出候処、右流木御届ケ之内弥伐取候跡有之趣被聞召御吟味御座候得共、右様之。无更ニ不存罷在候儀ニ御座候処、十月五日千代松・五郎兵衛御届ケ申上候ハ伐取候跡株茂見請候旨右ニ付場所御見届ケ御座候与弥驚入候。无ニ御座候、依之再々御吟味御座候得共被伐取候者何日頃ニ御座候哉、伐取候者何方之者ニ御座候哉、伐取候木品売買いたし候類作事其外何ニ而茂相

用江候、病中者不及申上病氣前後出勤仕罷在候□茂及見聞候羨聊以無御座候、御詰所の御糺し後者近村其外迄心附罷在候得共、有論之羨風聞ニも及承候羨御座候今以心当り之者も無御座候、然ル処右御吟味之者之内右伐取候木ニ者有之間敷候得共、村方附洲江流レ寄候材木引上ケ売候もの四人、右買受候者兩人御座候間万一伐木ニも御座候得者不憚義則買受候者当株之者ニ御座候、尤私組下之者ニ者無御座候得共同株内江不正之者御座候羨ヲ毛頭不存罷在、全以穿鑿不行届不念之至リ何様御沙汰御座候而茂可申上様無御座候

一右之段平治郎申上候、私父辰五郎羨高拾石八斗九升三合所持仕、家内私為ニ者父母女房男子老人ニ而五人暮ニ御座候、御普請所見廻り方之羨辰五郎心附羨甚平・要右衛門申上候通り同様ニ御座候、別段見廻り之羨流木調候羨無御座候、八月廿三日御詰所の株々三役人御呼出し之節者、辰五郎羨十四人同様罷出候処流失所御届ケ之羨承御糺候ニ付、諸事外株々組頭共の申上候通り同様ニ要右衛門申上候通りニ取斗江申候羨御座候而村方入用ヲ以打足し度歎願書差上候羨ニ御座候御引用ニ不相成、其段名主共の当御役所江御届ケ申上候羨ニ御座候、十月上旬の辰五郎儀眼病相煩罷在候処、同七日夜辰五郎株々村役人小前ニ至迄御引立被召出候ニ付、私羨為代当御役所江罷出申候処、右御普請所流木御届ケ之内杭木弥伐取候跡御座候旨被聞召御吟味御座候得共、御詰所の御糺し御座候迄者右様之羨辰五郎并私羨茂曾而不存罷在候、千代松・五郎兵衛十月五日伐取候跡弥見請候旨右ニ付御見届ケ之衆被遣候処、伐取候跡弥御見届ケ御座候旨驚入候羨ニ恐多羨ニ奉存候、依之再心御吟味御座候得共被伐取候者何日之頃ニ御座候哉、伐取候者何方之者ニ御座候哉、伐取候木品売買致し候類作事其外何ニ而茂相用江候者聊以及見聞候羨風聞ニも及承候羨無御座候、御詰所の御糺後者近村其外迄心附罷在候得共、有論之羨今以心当り之者辰五郎并私羨聊以無御座候、然ル処右御吟味之者之内右伐取候木ニ而者有之間敷候得共、村方附洲江流寄候材木九本引上ケ売候もの四人、右買受候者兩人御座候旨万一右伐取候木ニも有之候ハ、不憚羨、殊ニ右引上候者之内沢右衛門・喜助者私組下之者ニ而右様不正之者御座候

美者実ニ以毛頭不存罷在、全以穿鑿不行届ケ如何様御沙汰御座候而も可申上様無御座候、辰五郎儀快候ハ、可召出旨被仰聞御座候得共、追々快方ニ御座候得共未々他出至仕兼御役所迄茂冲も難罷出候間諸事私身ニ引請奉申上候

一右之段吉兵衛申上候、私美高六石七斗五升所持仕、家内母女房妹耄人弟三人ニ而七人暮ニ御座候、御普請所見廻り方之美甚平・要右衛門申上候通り之心得ニ而別段見廻り之美流木調之美無御座候、私美八月三日ハ流行疫病ニ相煩罷在、同月廿三日御詰所株々三役人御呼出し之節右病中ニ付私代り百姓代角右衛門相頼差出し私美者罷出不申候、同様当株名主五郎兵衛宅参会江罷越候様申来り候間押而五郎兵衛□□庭迄罷越、御亂之趣承り右始末承知仕候得共、病氣ニ而出席難罷在御座候ニ付別ニ存寄無御座候、一同多分次第宜取斗呉候様出席中江相頼ミ帰宅仕候、尚又療養仕罷在候、漸々十一月七日全快髪月代仕候美ニ御座候、私美者御詰所江者不罷出候得共、村役も相勤メ罷在候者之美別段被召出可有之処、当御役所御吟味中江戸宿麴町式丁目上総屋弥吉江宿御預ケ被仰付候者為差添罷出候間、直ニ奉請御吟味右御詰所江御届之流木之美伐取候跡御座候趣ニハ御座候得共、伐取候者何日頃ニ御座候哉、伐取候者何者ニ御座候哉、右木品売買いたし候者或者作事其外何ニ而も相用江候者、病中ハ不及申上病氣前後共及見聞候美無御座候、風聞等ニも及承候美無御座候、曾以不存罷在候美ニ御座候、病氣快出勤後者近村其外迄心附罷在候得共今以心当り之者無御座候、然ル処御吟味之者之内右伐取候木ニ而者有之間敷候得共、村方附洲江流寄候材木引上売候者四人、右買受候者兩人御座候旨、万一右伐取候品ニ而も有之候得者不憚美殊ニ右引上ケ候者之内定吉美者私組下之者ニ御座候美ヲ毛頭不存罷在候、全以穿鑿不行届ケ如何様御沙汰御座候而も可申上様無御座候

一右四人一同申上候御普請所見廻り方之美仕来之趣申立候得共、心得違い可有之既ニケ様之美出来候も等閑故之美油断至極不相濟事ニ候間被仰聞候得共可申上様無御座候、右之条々ニ付如何様御答メ被仰付候共一

言可申上様無御座候

右之通り御吟味ニ付相違之羨不申上候、已上

天保八酉年十二月

前書之通り申上候ニ相違無御座候、以上

御地頭所様

御役所

御知行所武州上吉羽村

世話役

金子茂右衛門

右

甚平

要右衛門

平治郎

吉兵衛

差添人

本村株

元組頭

勘重郎

口書

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

本村株

名主

儀助

当西式十式才

申口

当村方川除御普請所字堤大出しより川上杭出し考番之箇所杭木五拾本流失与心得、其段御懸り大竹伊兵衛様・小池勘次郎様江御届ケ申上候処、御取用ニ不相成候ニ付、其段八月廿六日当御役所江御届ケ申上候処、右者伐取候跡有之趣相聞江不容易儀ニ被思召、村方株々村役人其外小前大勢十月七日御引立被召出、逐一御吟味御座候一段私羨高廿九石五斗三升五合所持仕、家内祖母父女房弟妹七人暮ニ御座候、当夏中農業ニセ話敷隙無御座候間余事者不致罷在候、右利根川村方附川除御普請之羨願立之節、村内五株村役人共一同連印ニ而奉願候得共、右取扱之儀者信木株名主弥右衛門惣代ニ相頼候羨ニ付一向ニ私羨者取扱不申、御普請出来候節其外見廻り候儀無御座候、平常見廻り方之儀御尋ニ御座候得共是迄平日見廻候儀無御座候、出水之節者村役人共罷出見廻り大水ニ相成候得者小前呼集々水防仕候仕来リニ御座候、出水之節見廻り罷出候而も水高に而者御普請所之儀者惣代弥右衛門ニ爲任置候羨ニ付杭木流失ホ相改候羨モ無御座候、私父隠居甚兵衛羨七月十日私用ニ而幸手宿江罷越候途中ニ而権現堂村名主吉重郎ニ幸手宿ニ而行逢候処、御普請所御懸り様方上高野村御詰所江罷出候処、私村方流失所取調御届ケ申上候様可申通旨大竹伊兵衛様被仰渡御座候段口達御座候間、則罷帰リ其段私江申聞候、私其段惣代弥右衛門江以紙面ヲ申達候、依之弥右衛門羨翌十一日右爲調私同道可見廻り存

候、私宅江參り候処私弔農業罷出留主中ニ付其段家内江申置候間、弥右衛門申上候得共同日私弔農業相仕廻罷歸候節家内右様之儀不申聞候間存し不申候、其後弥右衛門取調方御届ケ方承り不申候、其段八月六日御普請御懸り様上高野村御詰所江村方用水不用証文為御届私可罷出候、不快ニ付為代甚兵衛罷出御届ケ申上候節、村方川除杭木流失之儀取調御書付相届ケ可申旨申付候処、今以不相届ケ如何之弔ニ候哉奉承御□□当奉恐入候得共、当春之御普請者村内惣代弥右衛門心得罷在候ニ付、弥右衛門□□候而者相分り不申私弔者存じ不申旨御答江申上候処、左候ハ、弥右衛門方江右之趣可申達旨被仰渡御座候ニ付、奉畏候旨御請申上罷歸り候途中右弥右衛門忤千代松幸手宿江私用ニ罷越候折柄ニ而同所於本陣前行逢江申候間、右御沙汰之趣甚兵衛ハ千代松江申達し候旨甚兵衛罷歸り申聞候、右之弔弥右衛門取斗方者承り不し申候間存不申候、其段八月廿三日夜千代松ハ株々名主共参会申来り候間、早速弥右衛門宅江集り申候、尤小七株名主五郎兵衛義者煩ニ付出席不仕候、出席仕候者弥右衛門病中に付千代松、轡瀬株名主嘉津馬、一ツや株名主藤兵衛并私共四人ニ而御座候、千代松ハ流水取調以書面御詰所江御届ケ申上候処、右御届書江上戸村榮喜、才場村小左衛門江印形被仰付候処、兩人相拒ミ御糺ニ相成候段千代松申聞何故之弔ニ御座候哉、子細不相誤候得共御届ケ不相濟段当惑仕候弔ニ奉存候、出席中相談之上翌廿二日四人同道仕御普請所見廻り相改候得共、水高ニ而流失与已相見江外ニ怪敷杭木相滅し候子細相分り不申候処候ニ付、其段千代松御詰所罷出申上候処右ニ而者不相濟、翌廿三日早朝株々三役人一同可罷出旨被仰渡候旨千代松ハ申来り候間、則同日十三人一同私弔も罷出申候処、伊兵衛様被仰聞候者是迄千代松江御普請所杭木滅し方之子細相尋候得共、流失与のミ申立一向相分り不申此度之儀者流失与申斗ニも有之間敷、何連子細可有之事ニ候旨請御糺一同子細相弁不申御答ニ当惑仕罷在候処、榮喜、上高野村佐五右衛門右取扱被仰付、右兩人ハ此度之弔皆流失之御届ニハ如何敷伐取候類も有之候樽も有之候ニ付、何連彦通りニ而者相濟間敷得与致談口御憐愍願候方ニも可有之哉与内沙汰も有之一同驚入奉存一

同退散仕、帰り道於途中小前迄急糺し可申合右参会ハ五郎兵衛方へ相寄合申談、私株組頭甚平、百姓代喜六江小前急参会触可致候旨申達し、私糺ハ五郎兵衛宅江一同集申候処、私株内ニ難捨置急用事出来呼ニ参り申候間、右御糺し之儀出席中江別意無之多分御取斗呉候様頼置帰宅仕、株内用向ニ取懸り申候、杭之一条小前之吟味も等閑不相成糺ニ付、翌廿四日未明迄不殘承り糺し候得共、右何とも皆流失之子細相弁申者伐取候者一人も無御座候得共、後之御普請之障リニも相成候趣、一統難波之儀何とも御沙汰軽く相濟候様取斗相頼候ニ付、其段五郎兵衛宅出席中江申遣し株内急用事も片時も難差置糺ニ付跡取斗之儀も同役共江頼置、私糺者早刻村方出立仕江戸表江出府仕当御役所江右之急用向御届ケ申上候、翌日廿六日昼前帰村仕右杭之糺村方入用ヲ以打足無御沙汰相濟候様歎願書御詰所江差出し候処、御取用江被相成次第千代松ハ承知仕、其段当御役所江御届ケ出候者私連印仕差上申候、然ル処十月七日夜野村幸右衛門殿御出役株々村役人并小前者迄御引立召捕当御役所江罷出候処、右流木御届ケ弥伐取候類有之趣被聞召遂一御吟味御座候得共、御詰所ハ御沙汰迄者伐取者可有之とも不存不志ん之糺ニ奉存罷在候処、御沙汰之節ハ承知仕恐多キ糺も奉存候心配仕罷在候、夫ハ只今以村々小前未々迄不及申ニ近村川筋ホ迄心附様子相尋、少々ニ而も有論之糺御座候ハ、可申上心懸ケ罷在候処、十月五日來春御普請御目論見御見分之節弥右衛門代千代松并五郎兵衛罷出候処、流失与心得罷在候箇所之内沓番之杭出し五十本之処、今迄水落切不申沓尺程水下ニ何者之仕業ニ御座候哉伐取候跡株相見江候、是迄者伐取之趣ニ者承知仕候得共水中樺探り坏ニ而勘者仕候而已ニ而ホ偽者不成明疑惑仕罷在候、右ニ而御糺も殿重之糺発明奉恐察候、其段右場所当御役所ハ見届ケ之衆被遣候処、其節水旱ニ相成右五十本之内四十二本被伐取候跡株有之候旨御見届ケ御座候由、乍去右伐取候者何日頃ニ御座候哉、何方之者ニ被伐取候哉、伐取候木品売買いたし候者或者馬付其外持運び候者作事ニ遣江候歟其外何ニ而も相用候もの及見分候糺無御座候、風聞ニも及承候糺無御座候、今以心当りも無御座候、右之通りニ者御座候得共御吟味之者之内右之伐

取木品ニ有之間敷候得共、村方外野流作場附洲江流寄候材木引上壳払候者四人右買受候者兩人御座候、殊ニ右引上候者之内卯之助者万一切取候木品ニ而も有之候得者、不憚^レ弐右様不有之者御座候^レ毛頭不致罷在候段全以穿鑿不行届、何様御沙汰御座候而も可申上様無御座候、且又御普請所見廻り方之弐心得方要敷^レ大切之田畑無難水防御普請被成下候場所之弐、右故銘々之家居も安穩ニ罷在難有弐付、平日^レ連も心附可見廻ル処無其儀既ニケ様之弐出来候四人江等閑り心得違油断至極之不相濟事ニ候旨被仰聞候得共、御答可申上様無御座候、右之弐ニ付何如様御答メ被仰付候共、一言之可申上様無御座候

右之通り御吟味ニ付相違之儀不申上候、以上

右村

儀助

天保八酉年十二月

差添人

平治郎

前書之通り申上候ニ相違無御座候、以上

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

世話役

金子茂右衛門

御地頭所様

御役所

口書

(20)

十二月十一日帰村被仰付直

印形仕候

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

轡瀬株

嘉津馬

当西貳十九才

申口

当村方川除御普請所字堤大出し川上杭出し沓番之ヶ所杭木五拾本流失与心得、其段御掛り大竹伊兵衛様・小池勘次郎様江御届ヶ申上候処、御取用ニ不相成候ニ付、其段八月廿六日当御役所江御届ヶ申上候処、右者弥伐取候跡有之趣相聞不容易之被思召、村方株々村役人其外小前大勢十月七日御引立被召出、逐一御吟味ニ御座候此段私之高五拾九石九斗九升九合所持仕、家内父、女房、男子老人、弟老人、妹三人、下男三人、下女三人、十一人暮ニ御座候、私之当年者疝癩瘵氣ニ付六月十日村方出立仕上州伊香保・草津温泉江為療治罷越七月九日帰宅仕候、利根川村方附川除御普請願上之節村内五株村役人とも一同連印ニ而奉願候得共、右取扱之之者信木株名主弥右衛門惣代ニ相頼候之ニ付一向ニ私之者取扱不申候、御普請出来候節其外見廻り候之無御座候、平常見廻り方之之御尋御座候得共是迄平日見廻り候之無御座候、出水之節者村役人とも罷出見廻り大水ニ相成候得者小前呼集メ水防仕候仕来ニ御座候、出水之節見廻り罷出候而も水高ニ而者御普請所杭木流失も相分り兼候之ニ御座候、御普請所之之者惣代弥右衛門ニ為任置候之ニ付杭木流失ホ相改メ候之無御座候、八月廿一日惣代弥右衛門病氣ニ付為代同人悴千代松流失御届ヶ所御懸り様方私ニ而受御見分夫々上高野村御詰所江罷出候処、流失御届ヶ御承り無御座候ニ付、同日夜千代松より同人宅江株々名主共参会申来候間早速同

人宅江罷越し申候、尤小七株名主五郎平衛美ハ病氣ニ付出席不仕、出席仕候者ハ千代松、本村株名主義助、一ツ谷株名主藤兵衛并ニ私ニ而四人ニ御座候、千代松ヲ流木取調以書面御詰所江御届ケ申上候処、右御届ケ所江上戸村榮喜、才羽村小左衛門江印形被仰付候処兩人相拒ミ相糺ニ相成候、右ニ付而其度如何様可然哉相談之旨ニ御座候、何故之美ニ御座候哉子細不相分御届ケ不相濟段当惑仕候美ニ奉存候、出席申談口之上翌廿二日四人同道御普請所見廻り相改メ候得共、水高二而流失与而已相見得候外ニ怪敷杭木相減シ候子細相分り不申候ニ付、其段千代松御詰所江罷出申上候処右ニ而者不相濟、翌廿三日早朝株々三役人一同可罷出与被仰渡候旨千代松ガ申来候間、則同日十三人一同ニ私美も罷出申候処伊兵衛様被仰聞候、是迄千代松御普請所杭木減シ方子細相尋候得共、流失与而已申立一向相分不申此度之美者流失与申斗リニ茂有之間敷、何レ子細可有之事ニ候旨、諸御糺一同相弁不申御答ニ当惑仕罷在候処、榮喜、上高野村佐五右衛門江取扱被仰付右兩人ガ此度之美者皆流失之御届ケ者如何敷伐取候扱候噂茂有之ニ付、何レト通りニハ相濟間敷得与致談口御憐愍願候方ニ茂可有之哉御沙汰有一同驚入奉度候、退散仕帰り道ニおゐて五郎兵衛美病氣ニ而罷出不申候、依之同人宅江可致参会申談し一同集り小前一統可致吟味申談し小前急来会組頭百姓代江申達株々小前一同呼集相糺し候得共、何レ茂子細相弁候者無御座伐取候者も老人も無御座候得共、当春出来御普請所右様之始末ニ而も冥加之程も恐多跡御普請之障リニ相成候而も難波之旁以千代松ガ申上候通り村方入用ヲ以打足し無沙汰相濟候様仕度、村内一同申談し歎願書御詰所江差出申候処御取用ニ不相成、其段同廿六日当御役所江御届ケ申上候、其後村内者不及申近村川筋其外迄心附ケ様子相探り有論之美御座候ハ、可申上旨奉存罷出ル十月七日夜野村幸右衛門殿御出役株々村役人其外小前之者迄御引立被召出、則当御役所江私美茂罷出候処右流木御届ケ弥伐取候跡有之趣被聞合遂一御吟味御座候得共、御詰所ガ御沙汰御座候迄ハ伐取候者可有之共不奉存上可審之美与奉存罷在候処、御沙汰之節ガ承知仕驚入候美心配仕罷在候処、十月五日来春御普請御目論見御見分之節弥

右衛門忰千代松并五郎兵衛罷出候処、流失与心得罷在候ヶ所之内卷番之杭出し五十本之処未々水落切不申、
 卷尺程水下ヲ何者之仕業ニ御座候哉伐取候跡株相見江候趣、是迄ハ伐取趣ニ者承知仕候得共水中之羌真偽者
 不定疑念仕罷在候処、右ニ而御糺シ茂敷重之羌奉恐察、其後右場所当御役所御見分之衆被遣候処、其節者水
 干ニ相成右五十本之内四拾六本伐取候跡御座候段御見届ケ御座候間、乍去右伐取候ハ何日頃ニ御座候哉、伐
 取候者何方之者ニ御座候哉、伐取候木品売買致候者或者馬附其外持運候者作事ニ遣候歟其外何ニ而茂相用候
 者及見聞候羌無御座候、風聞も及承候羌無御座候、今以心当り聊以無御座候、然ル処御吟味之内右伐取候木
 ニ而有之間敷候得共、村方外野流作場附洲江流し寄候材木引上ケ売払候者四人、右買受候者兩人御座候、殊ニ
 右買受候伝五郎・利兵衛者私支配下之者ニ御座候、若し万一切取候木品ニ而も御座候ハ、不怪羌ヲ毛頭不致
 罷在候段、全以穿鑿不行届キ不念至極如何様御察当御座候而も可申上様無御座候、且又御普請所見廻り方之
 羌心得方悪敷大切田畑無難為相統水防御普請被成下候場所之羌、右故銘々住居安穩ニ罷在難有羌ニ付平日逆
 も附可見廻ル処無其儀既ニケ様之羌出来候仕合等閑故之羌油断至極不相濟事ニ候旨被仰付候得共、御答可申
 候様無御座候、右之羌ニ付如何様御答被仰付候共一言可申上様無御座候

右之通り御吟味ニ付相違之羌ハ可申上候、以上

右

天保八酉年

十二月十一日

差添人

嘉津馬

平次郎

前書之通り申上候ニ相違無御座候、以上

御地頭所様

御役所

御知行所武州葛飾郡五ヶ村

世話役

金子茂右衛門

口書

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

信木株

百姓代

沢右衛門

当酉三十八才

申口

当村方川除御普請所字堤大出し、川上杭出し、老番之ヶ所杭木五十本流失与心得、其段御懸り大竹伊兵衛様・小池勘次郎様江御届ヶ申上候処、御取用ニ不成候ニ付、其段八月廿六日当御役所江御届ヶ申上候処、右著弥伐取候跡有之趣相聞江不容易被思候村方株々村役人其外小前大勢十月七日御引立被召出逐一御吟味御座候、此段沢右衛門申上、私高老石七斗所持仕候間、家内女房、男式人、女子五人暮し御座候、素ヶ貧窮者御座候農間之余業綿打ヲ仕候得共、去申年之違作ニ而打候品物無御座候、而商売誠ニ隙ニ御座候上、私共三ヶ年已前、病身ニ相

成癩氣持病相成相勝レ不申、殊ニ去申年違作ニ付誠ニ以必至ニ而困窮仕、妻子露命漸取統罷在候年柄ニ而窮迫仕罷在候、御普請所見廻り方之義名主頭組共（つとむ）申上候通り別段心得無御座候、大水之外見廻り候義無御座候、杭木ホ改メ候義御座無候、八月廿三日御普請御懸り上高野村御詰所江株々三役人御呼出し之節者私も罷出申候、杭木之御届ケ右御糺之趣当株名主弥右衛門代千代松申上候通りニ無御座候而、伐取候者有之候哉之趣驚入候義奉存候、同日夜小七株名主五郎兵衛方江参会仕小前為糺急参会相触呼集メ相糺候得共、流木之子細存候者無御座候、伐取候者茂無御座候得共、此上御沙汰相成候而者恐多当惑之義ニ付、小前一同申談之上村方入用ヲ以打足し度歎願書御詰所江差上申候、御取用ニ不相成其段名主共（つとむ）当御役所江御届ケ申上候義ニ御座候、其段十月七日夜村方江野村幸右衛門様御出役私并外株々村役人小前ニ至迄大勢御引立被召出則当御役所江罷出候処、右流木御届ケ之義弥伐取候跡有之候旨被聞召御吟味御座候、私義右伐取候覺無御座候間其段申上候処奉受御糺、六月下旬之頃私村方堤外野流作場江農業ニ罷出候処、当株百姓喜助、本村株百姓卯之助、小七株百姓定吉も同様農業罷出居、小休時之節右四人一同附洲江罷出川表江水見罷在候処、材木九本流寄候間繫留置杭木共不存故水干ニ相成砂場江引上ケ候処、長サ二、三間程とも見受候得共、式間余ニも有之へく哉杉丸太式本檜丸太七本ニ御座候、三人共私同様困窮人ニ而妻子食物ニ差支難義仕罷在候折柄ニ付、右壳渡し麦割ニ而も引替度申合候義ニ御座候、其後宇之助義者閑居江罷越申候七月六、七日之頃ニも御座候哉跡三人同所江農業ニ罷出候節、轡瀬株百姓伝五郎、利兵衛義同所江農業ニ罷出候間、所持之材木払度旨咄し候処、買受可申旨申之ニ付麦割ニ茂引替ニ仕呉候様致談合雜穀有合無之趣ニ而代セン積ニ仕、宍本三百文ツ、九本ニ而式メ七百文に壳渡し代セン伝五郎（つとむ）定吉受取、定吉（つとむ）兩人江受取候間申越申談し之上四ツ割仕、宍人前六百七拾式文ツ、喜助・定吉・私配分仕、宍人前者宇之助・留五郎ニ者候得共、約束之義ニ付家中江差遣シ申候義ニ御座候旨申上候処、当御吟味中手鎖被仰付相慎ミ罷在申候、右之義ニ何ケ度御尋御座候而も伐取候義者決而無御座、乍去右始末極窮仕候逆何方

之品不相知品猥ニ引上ケ役元江茂無斷勝手佯売払成し、既ニ御普請所御座候処此度村方危難所除ケ川表老番之杭出し五十本皆無、内四拾六本ハ伐取跡御座候旨此度之羨者公辺御役人御普請御懸り様江御不審ニ被思候時節与申旁不怪羨御座候旨被仰聞御座候得共、右様之羨可有之共不存只々誠ニ取続兼而朝夕ニ差支候身分ニ付、少々ニ而も妻子食物之助ニ仕度一箇ニ存込余念無御座候羨ニ而、外ニ者何心羨附不申罷在候羨ニ御座候、右之外ニ怪敷木品ホ見受候羨無御座候、又ハ持連行候者及見聞候羨無御座候、右伐取候者者何方之者ニ御座候哉、何日頃之年ニ御座候哉、聊ニ而も及見聞候羨有論之羨無御座候、右似前之品取扱候羨御座候、村役人糺し之節不存与而巳申之後ニ聞キ致方御察当ニ御座候得共、御□□申上様無御座候、是又私羨者村役人ニも相加り候者之羨甚以心得方不得其意其上見廻り方羨仕来之趣申上候得共、等閑故ケ様之羨茂出来候様專申談し難立、是又御答可申上様無御座候、依之如何様御答メ被仰付候とも一言可申上様無御座候

一右流寄候材木之羨申上候員數之外一本茂無御座候、他所ノ売渡候羨無御座候、一ツ谷株之者談し候羨決而無御座候、此段茂御尋可付申上候

右之通り御吟味ニ付相違之羨不申上候、以上

天保八酉年

十二月十一日

右

沢右衛門

前書之通り申上候ニ相違無御座候、以上

百姓代

角右衛門

組頭

惣右衛門

(25)

(26)

名主

五郎兵衛

御知行所武州五ヶ邑

金子茂右衛門

口書

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

小七株

百姓

定吉

当酉三十五才

申口

当村方川除御普請所字堤大出し川上江杭出し沓番之箇所杭木五拾本流失与心得、其段御掛り大竹伊兵衛様・小池勘次郎様江御届ケ当御役所江御届ケ申上候処、右者弥伐取候跡有之趣相聞江不容易之被思召、村方株々村役人其外小前大勢十月七日御引立被召出逐一御吟味御座候

此段私茂高式石余所ぢ仕、家内母、女房、女子式人ニ而暮ニ御座候、農間之余業ニ素麵拵江商ひ仕候得共、家内多困窮者ニ御座候之上去申年違作米値段格別ニ高直之茂当麦作相応ニ奉存候処左程之茂無御座候、米払□故麦茂高直ニ御座候、麦者不出来ニ御座候故商売引合不申殆之暮方ニ差支当惑仕候仕合ニ御座候、八月廿三

日夜村役人中より急参会申来候節私共即刻当株名主五郎兵衛方江罷出、其節川除御普請所杭流失所共尋御座候共右子細相弁不申候間、(伐取共も無御座候間其段申述候間)、諸事無沙汰事済候様取斗呉候様相頼候共ニ御座候、十月七日夜私共も同様御引立被召出則当御役所江罷出申候処、右流失御届ケ之共弥伐取候跡有之被聞召御吟味御座候へ共、伐取候覚無御座候間其段申候処段々奉受御糺し六月下旬之頃私村方堤外野流作江農業ニ罷出候処、本村株百姓卯之助、信木株百姓代沢右衛門、百姓喜助同所ニ農業ニ罷出居小休ミ之節、私外三人一同附洲江罷出川表水見罷在候処、材木九本流レ寄候間四人ニ而繋留置杭木共不存故水干ニ相成砂場江引上ケ候処、共、三間程之檜丸太本杉丸太共本ニ御座候、私同様困窮人ニ而夫食ニ差支難共罷在候時節ニ付、右壳渡相口割ニ而引替度申合候共ニ御座候、其後卯之助共閑宿江罷越申候七月六、七日之頃ニも御座候哉、跡三人同所江農業罷候節、轡瀬株百姓伝五郎・利兵衛義同所江農業罷出候間、所持之材木払度旨咄仕候処買受可申旨申し候ニ付、麦割ニ引替江呉候様談し候処雜穀有合無之趣ニ而代積り致し、苞本三百文ツ、九本ニ而式メ七百文ニ壳渡右代セン伝五郎共私受取、沢右衛門・喜助申談し之上四ツ割ニ仕老人前六百七十式文ツ、沢右衛門・喜助・私配分仕暮し方ニ相用江候老人分者卯之助留主中ニ者候得共、約束之共ニ付同人家内江私共差遣シ申候ニ御座候旨申上候処、当御吟味中手鎖被仰付相頼ミ罷在申候、右之共何ケ度御尋御座候而も伐取候義者決而無御座候、乍去右始末極窮仕候連何方之品とも不相知共狼りニ引上ケ役元江茂無断勝手候ニ壳払成し、既ニ御普請所御見分之衆茂被遣候処、村方危難場川除老番之杭出し五拾本皆無内四拾六本伐取候跡御座候旨此度之共ハ公辺御掛り御役人様方御不審ニ被思召、時節中旁不怪共ニ御座候而被仰聞御座候得共、右様之共有之へく共不存只々誠ニ取続兼、朝夕ニ差支候身分ニ付少々ニ而も妻子喰物之助ケニ仕度、一因ニ存込ミ余念無御座候共ニ而外ニ者何事茂心附不申罷在候共ニ御座候、右ノ外者怪敷木品ホ見受候共無御座候、又者持運ヒ候者及見聞候共無御座候、右伐取候者ハ何方之者ニ御座候哉、何日頃之事ニ御座候哉、聊ニ

而茂及見聞候、有論之、無御座候、村役人、糺し之節、不存、ト而已、申上、後日、聞キ、致し方、御察、当ニ御座候、得共御答可申上、様無御座候、右之、茂ニ付、如何様御答、メ被仰付候、共一言可申上、様無御座候、右流、寄材、木之、茂申上候、員數之外、壳、本、茂無御座候、他所、江壳渡し候、茂決、而無御座候、一ツ谷、株之者ニ申談候、茂決、而無御座候、此度御尋ニ付申上候

右之通り御吟味之節申候ニ相違無御座候、以上

天保八酉年

十二月十一日

右

定吉

差添人

孫右衛門

又兵衛

百姓代

角右衛門

組頭

惣左衛門

名主

五郎兵衛

前之通り申上候ニ相違無御座候、以上

御知行所武州五ヶ邑

口書

世八役

金子茂右衛門

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

小七株

名主

五郎兵衛

当西四十五才

申口

一 当村方川除御普請所字堤大出し、川上杭出し、沓番之ヶ所杭木五拾本流失与心得、其段御懸り大竹伊兵衛様・小池勘次郎様江御届ヶ申上候処、御取用不相成候ニ付、其段八月廿六日当御役所江御届ヶ申上候処、右伐取候跡有之趣、其外小前大勢十月七日御引立被召出逐一御吟味御座候、此段私羌高式拾老石七斗沓合所持仕、家内父、伯母、女房、男三人、女子三人、下男三人、下女一人、都合拾三人暮ニ御座候、利根川村方附川除御普請所願立候節者、村内五株村役人連印仕奉願候得共右取扱之羌者信木株名主弥右衛門惣代ニ相頼候羌ニ付一向私羌取扱不申候、御普請出来候節其外見廻り候方羌御尋御座候得共是迄二十日見廻り候羌無御座候、出水之節者村役人共罷出見廻り大水ニ相成候得者小前呼集メ水防仕候仕来御座候、出水之節見廻り罷出候而も水高二而者御普請所杭木流失も相分り兼候羌御座候、御普請所之羌者惣代弥右衛門ニ為任置候羌ニ付杭木流失ホ相改メ候羌無御座候、七月中、八月中者流行疫邪ニ而家内中相煩何茂又病ニ而難羌仕候間、何方江茂不罷

出村内場所茂見廻し不申候、八月廿三日御普請所御掛り様上高野村御詰所々株々三役人御呼之節、私々病氣追々快方ニハ御座候得共未々暇与不仕候間、同役相頼罷出不申候ニ付何レ茂御詰所退散ノ同日夜私宅江参會仕候々御座候得共、御詰所おゐてハ御糺し之趣是迄弥右衛門病氣ニ付代悴千代松ノ流失御届ケ之々此度之々者左様ニも有之間敷、皆流失者如何之事ニ候旨大竹伊兵衛様ノ蒙御糺候処、一同子細相弁不申候御答ニ当惑仕罷在候処、上戸村栄喜、上高野村佐五右衛門江取扱被仰付、右兩人ノ此度之々者取扱候狀伐取候狀噂茂有之々何レ一ト通りニ而者相済申間敷得与致談合候、憊怒之願候方茂可有之哉内沙汰有之一同驚入候々御座候与御詰所ノ引立候者申聞候ニ付承知仕候、私宅江打寄候者一同申談し之上小前々々ニ至まで不殘参會相触呼集メ不殘相尋候得共、訴有而伐取候杯申者老人も無御座候得共、何レニ而も難差置当春出来之御普請所右様之始末ニ而者冥加之程々恐多跡御普請所之障リホニ相成候而者難決之々旁以千代松ノ申上候道江村方入用ヲ以打足し無沙汰相済候様仕度、村内一同申談し之上翌廿四日千代松并外株々之者一同私々茂病氣押而駕籠ニ而御詰所江罷出敷願書御差出し申候処御取用ニ不相成、其段八月廿三日当御役所御届ケ申上候々ニ御座候、其後村内不申及上村川筋其外迄心附相尋若哉聊而も有論之者御座候ハ、早々可申上懸ケ罷在候内十月七日夜野村幸右衛門殿御出役株々村役人其外小前之者迄御引立被召出則御吟吟味御座候得共、御詰所ノ御沙汰御座候申上てハ伐取候者可有之共不奉存不審之々ニ奉存罷在候処、御沙汰之節ノ承知仕恐聊心配罷在候、十月五日來春御普請所御目論見之節千代松并私御案内罷出候処、流失与心得罷在候箇所之内考番之杭出し五拾本之処未々水落切不申候而、考尺程水下ニ何者之仕業ニ御座候哉伐取候跡株相見江申候、是迄者伐取候之趣者承知仕候得共水中之々真偽者不存疑念仕罷在候処、□□事ニ而御糺し茂嚴重之々御尤ニ奉察、其後右所御見分之衆茂取遣候処、其節者水干ニ相成弥右五拾本伐取候者何日頃ニ御座候哉、伐取候者ハ何方之者ニ御座候哉、伐取候木品売買致し候狀或者馬附其外持運候者作事ホニ遣ひ候類狀其外何ニ而も相用候者及聞見候々無御座候、風聞ニ茂及承候々無御座候、乍恐常々之者々無御座、然ル処御吟吟味之者之内右伐取候木ニ而者有之間敷候得共、村方

御地頭所様

御役所

外野流作場附洲江流寄候材木引上ケ壳候もの四人右品買候者兩人御座候旨、殊ニ右引上候者之内定吉弐ハ私配下之者万一右伐取木ニ而茂御座候得共不怪弐ヲ毛頭不存罷在、全以穿鑿不行届不念之至ニ御座候、如何様御察当御座候而も可申上様無御座候、且又御普請所見廻り方之弐者心得方悪敷大切之田畑無難ニ為相続水防御普請被成下候場所之弐、右故銘々住居茂安穩ニ罷在難有弐ニ付平日迎も心懸ケ可見廻ル所無其儀、既ニケ様之弐出来候仕合等閑故之義油断至極不相濟事ニ而被仰聞候得共、御答可申上様無御座候、右之弐ニ付如何様御答メ被仰付候共一言可申上様無御座候、八月廿三日夜私宅参会之節一ツ谷株村役人共不残出席仕、株々同様申談し右株小前不残呼集メ相糺し候処、是又同様伐取杯与申弐人も無御座候旨ニ而、惣而同意ニ付嘆願書通り印仕候弐御座候、其後も諸事株々同様之旨ニ御座候、以上

右之通り御吟味ニ付相違之弐不申上候、以上

右

天保八酉年

十二月十一日

差添人

平次郎

五郎兵衛

前書之通り申上候ニ相違無御座候、以上

御知行所武州葛飾郡上吉羽村

世ハ役

金子茂右衛門

